



# 荻川小だより

〒956-0011 新潟市秋葉区車場 922-1

電話：0250-25-2171 FAX：0250-25-2172

<http://www.ogikawa.citv-niigata.ed.jp/>

令和7年12月22日発行

## 環境としての大人

教頭 菅原 知昭

私は小学生から大学まで読書が苦手でした。大学卒業後、いわゆる就職浪人となった際、図書館で学習しながら、気になる本を借りたり買ったりして読みました。好きなスポーツのことから生き方や物事の考え方まで幅広く知識を得ました。この頃から読書は学びが多く面白いと感じるようになり、ここまで自分なりのペースで読書を楽しみ続けています。先日、『いまの科学でいちばん正しい 子どもの読書 読み方、ハマらせ方』という本を手に取りました。著者は明治大学教授で言語学者の堀田秀吾さんです。

本書の書出しに『読書の習慣は才能ではなく、環境で決まる』という一文がありました。納得のいく言葉ですし、希望の持てる一文でした。多くの人が、習慣づけることができる可能性を示唆していると感じたからです。堀田さんによれば、子どもが本にハマるポイントとして、次の3つを紹介していました。

- ① 本がすぐ手に取れる「環境」（本が身近にある環境を作る）
- ② 「読書＝楽しいこと」という記憶の定着（寝前の読み聞かせ、本のプレゼント）
- ③ 親がうまく伴走する（親が積極的に本を読む）

これを読んだ時、これって読書のことだけかな？と感じました。「環境づくり」「楽しさ・喜び」「親（大人）の姿勢」を大切にしていくことで、学習、運動、挨拶や言葉遣い、人との関わり方、メディアとの向き合い方、家庭での役割など、様々なことを習慣づけることにつながるのではないか？と思ったのです。そんなことを感じたら、皆さんと共有したい！と思い、今回の便りに掲載する事にしました。

私たち大人は、子どもにとって身近で影響を与える環境の1つです。子どもたちにとってロールモデルになりやすい存在です。私たち大人一人一人が何を大切に子どもたちと関わっていくのか、大切にしたいことが伝わる行動を示しているか、今一度考え、行動していきたいと感じました。

引用文献 堀田秀吾 『いまの科学でいちばん正しい子どもの読書 読み方、ハマらせ方』

2025年10月2日 中央精版印刷株式会社